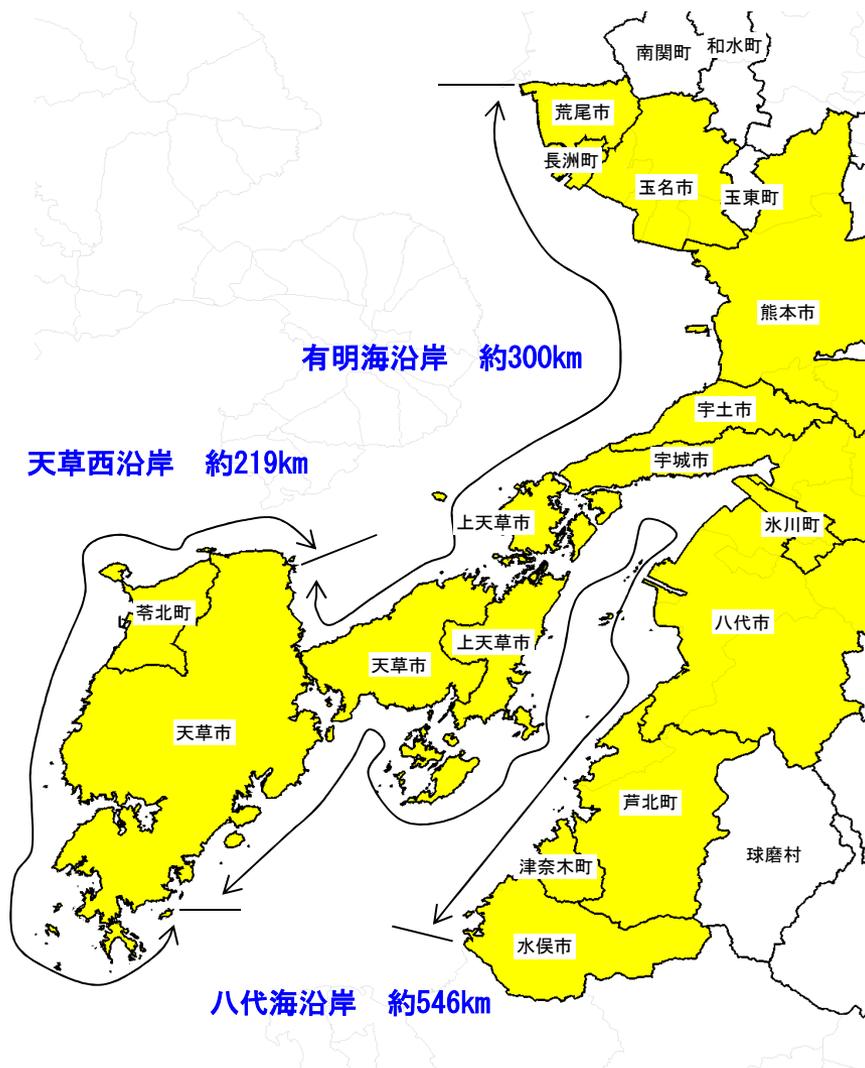


熊本県沿岸における津波浸水想定 説明資料

熊本県
平成26年5月

熊本県沿岸の概要(今回の津波浸水想定の対象範囲)



海岸線延長 約1,065km

■ 有明海沿岸 延長約300km

日本一の干満差や干潟面積を有し、岩礁海岸が大半を占めるなど自然環境が豊かな海域。

■ 天草西沿岸 延長約219km

天草諸島と九州本土に挟まれた閉鎖が高く、一部ではリアス式の海岸を有するなど変化に富んだ海域。

■ 八代海沿岸 延長約546km

リアス式海岸や岸壁が連なる直線状の比較的単調な海岸など、変化に富み特色ある海岸景観が見られる海域。



基本的な考え方

- 1) 地域海岸ごとに津波高さ（既往津波・想定津波）を整理
- 2) 下図のようなグラフを作成し、最大クラスの津波となる可能性のある対象津波群の中から、津波高さが最も大きくなると考えられるものを最大クラスの津波として選定
- 3) この津波を対象に、一定の悪条件の下、津波浸水シミュレーションを実施し、浸水域及び浸水深を算定

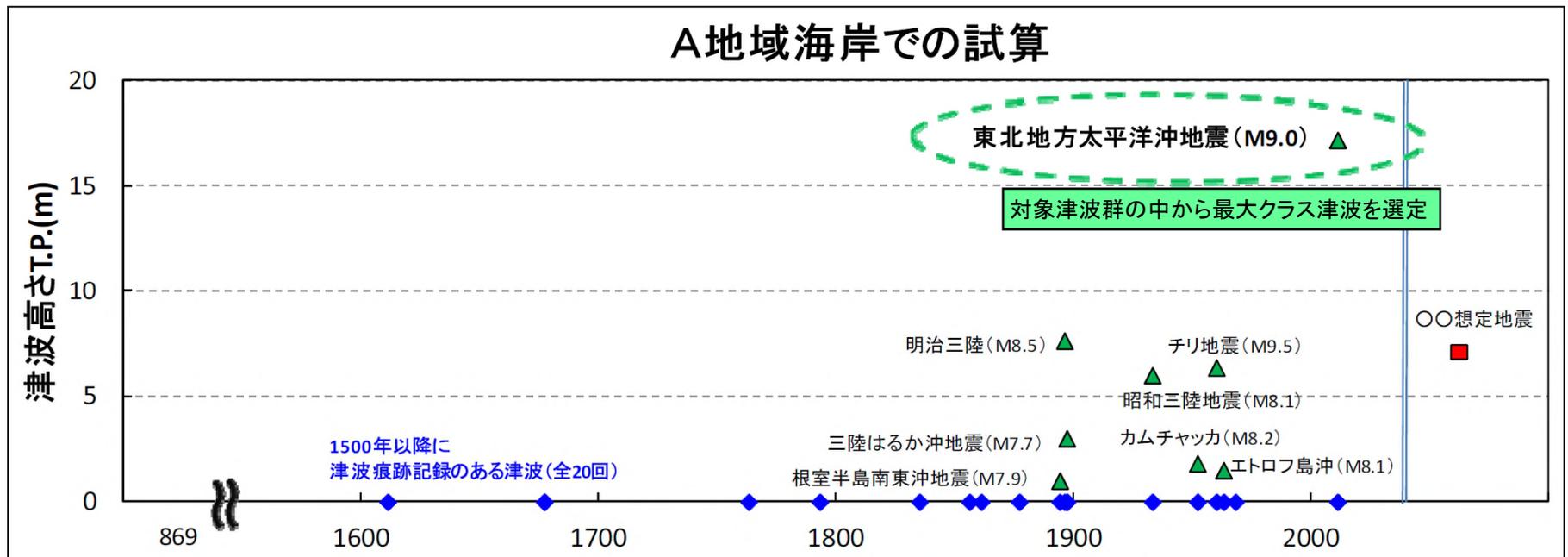


図 最大クラスの津波を選定するためのグラフ

過去に熊本県沿岸に襲来した記録等がある既往津波

No	発生日時	発生場所	マグニチュード	熊本県内の津波による被害			備考（津波の種類）
				地域	津波高	内容	
1	744年6月6日 （天平16年）	-	7.0	天草 芦北 八代		官舎・田290余町、民家470余区、人1520余	県沿岸での近地津波の可能性（布田川-日奈久断層）
2	1707年10月28日	南海トラフ	8.6	八代市	0.5~1.0m （八代市）		南海トラフによる津波
3	1792年5月21日 （寛政4年4月1日） 【島原大変】	雲仙岳	6.4	玉名 熊本 宇土 天草	10~20m程度	死者約5,100人	山体崩壊による津波
4	1828年5月26日 （文政11年4月13日）	長崎	6.0	天草	不明		海底火山の噴火による津波の可能性（天草沖の海底噴火）
5	1960年5月24日 （昭和35年）	南米チリ沖	8.2~ 8.5	天草 （本渡）	不明	床上浸水3戸 （本渡市）	遠地津波（チリ沖）
6	2010年2月27日 （平成22年）	南米チリ沖	8.8	天草	20cm （天草市本渡港）		遠地津波（チリ沖）
7	2011年3月11日 （平成23年）	三陸沖	9.0	天草	70cm （天草市本渡港）		遠地津波 （東北地方太平洋）

：近地津波（地震の揺れを感じる津波）

：遠地津波

：火山噴火や山体崩壊など、地震以外の発生原因を持つ（またはその可能性のある）津波

出典：

- ・新編日本被害地震総覧
- ・日本被害津波総覧
- ・日本付近のおもな被害地震年表
- ・熊本県の気象百年
- ・熊本県災異誌
- ・気象庁資料
- ・津波痕跡データベース（東北大学災害科学国際研究所及び原子力安全機構）

**【島原大変】の
取扱については
次頁詳述**

寛政4(1792)年の火山活動により発生した山体崩壊に伴う津波について

寛政4(1792)年に雲仙岳(注)の火山活動による地震動で山体崩壊が発生し、大量の土砂が海に突入することにより発生した津波で、長崎県や熊本県の沿岸に大きな被害が発生したとの記録があるが、津波浸水想定を検討するにあたり、以下の状況から、現時点ではこの現象を検討対象としないこととした。

(注)：雲仙岳は、島原半島の4分の3を占める形成時期の異なる複数の山体からなる火山群の総称で普賢岳はその主峰の名称、眉山も雲仙岳の山体

①天狗山(眉山の一部)

寛政4(1792)年の雲仙岳の火山活動の際に崩壊土砂が海に突入し「島原大變肥後迷惑」と呼ばれる津波を引き起こしたと言われているが、現況の地形では、津波を引き起こすことは考えづらい。

②七面山(眉山の一部)

眉山の一部である七面山は、天狗山が崩壊したときに比べ山頂から海岸線までの距離が2倍程度あり、仮に崩壊したとしても津波を引き起こすことは考えづらい。

③溶岩ドーム(平成新山)

平成2(1990)年～平成7(1995)年の噴火による溶岩の噴出により、普賢岳頭部に新たに形成された溶岩ドームについては、国土交通省雲仙復興事務所によるシミュレーションによると、仮に崩壊したとしても、土砂は海まで到達しない。

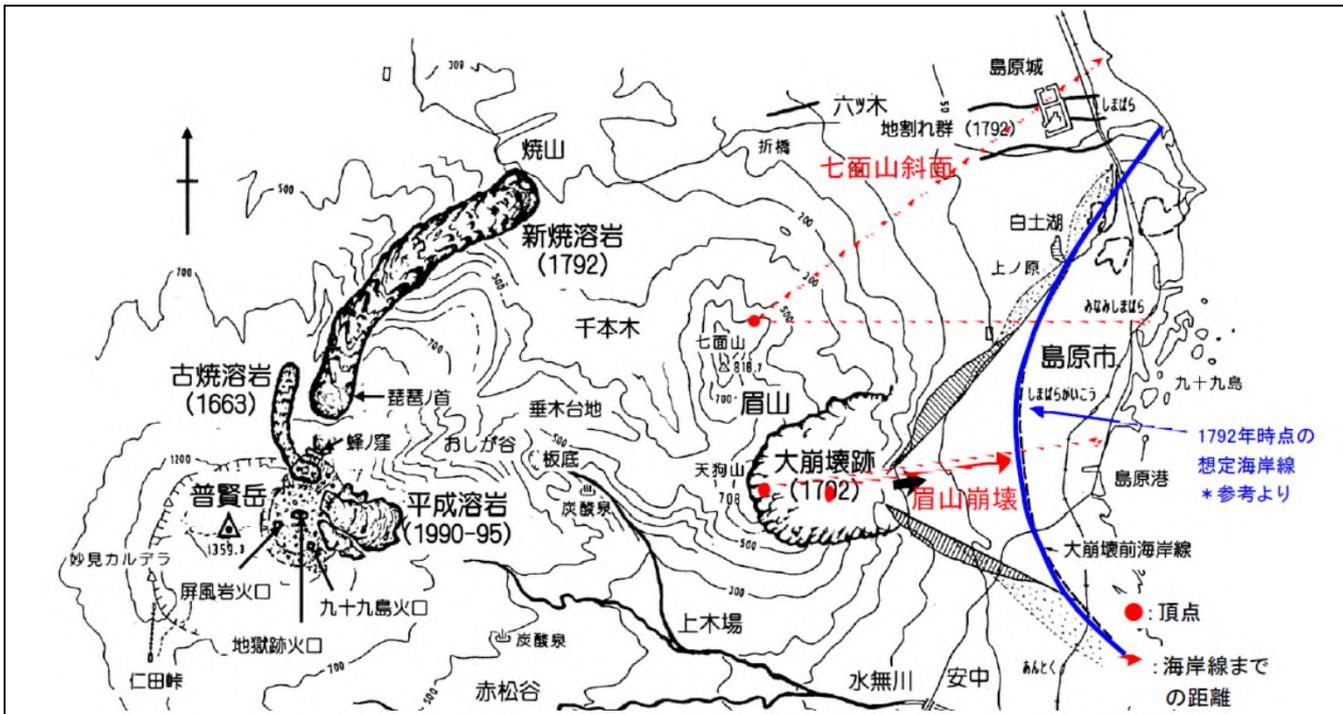
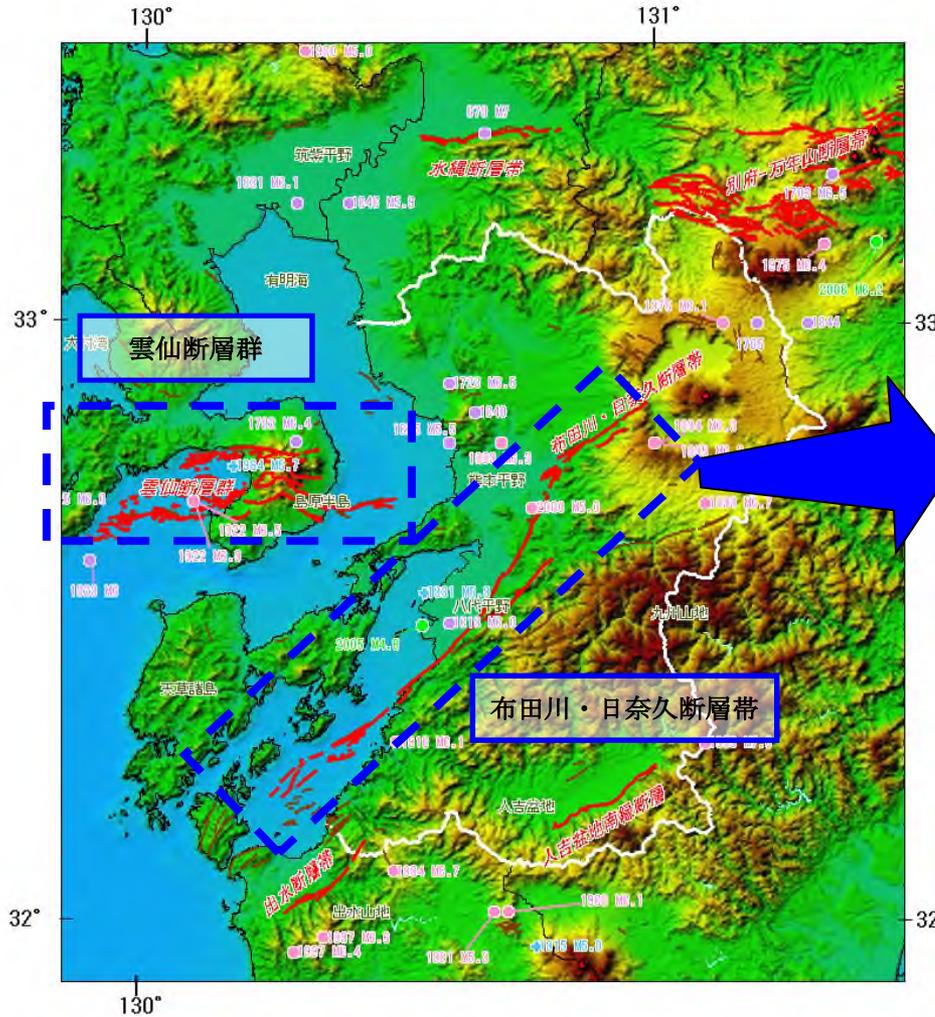


図 雲仙岳内の天狗山、七面山、普賢岳の位置図

熊本県沿岸に今後襲来する可能性のある想定津波



「日本の地震活動」(地震調査研究推進本部)より引用

○ 「地震活動の長期評価」(注) 地震調査研究推進本部

- ・ 雲仙断層群 平成18年5月15日公表5月17日訂正
- ・ 布田川・日奈久断層帯 平成18年1月11日訂正

【雲仙断層群】

南東部Mw7.1
南西部Mw7.5

【布田川・日奈久断層帯】

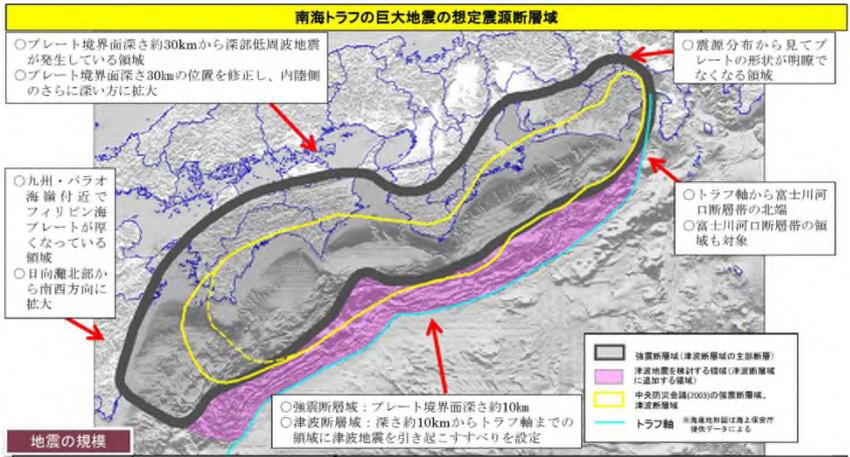
中部・南西部Mw7.9

(注): なお、地震調査研究推進本部は、平成25年2月に「九州地域の活断層の長期評価(第一版)」を示した。

その中では、これまでの布田川・日奈久断層帯を布田川断層帯と日奈久断層帯に分割することとなったが、この2つの断層帯の連動型の活動については、その規模が修正されている。

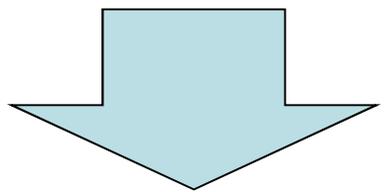
但し、津波の検討を行う上で必要なパラメーター等の数字データについては、現時点では示されていないため、これまでの布田川・日奈久断層帯の中部・南西部連動型を用いて検討を行った。

熊本県沿岸に今後襲来する可能性のある想定津波



南海トラフの巨大地震	参考			
	2011年 東北地方太平洋沖地震 (津波断層モデル)	2004年 スマトラ島沖地震 (津波断層モデル)	2010年 チリ中部地震 (津波断層モデル)	中央防災会議(2009) 強震断層域
面積	約14万km ²	約11万km ²	約10万km ²	約6.1万km ²
モーメント マグニチュード Mw	9.1	9.0	9.1 (Ammon et al. 2005) 9.0 (理科年表)	8.7 (Pulido et al. in press) 8.8 (理科年表)

出典：南海トラフの巨大地震モデル検討会
(第二次報告)(平成24年8月29日)



南海トラフ Mw9.1

南海トラフ巨大地震の震源域は長期評価の震源域を包絡する



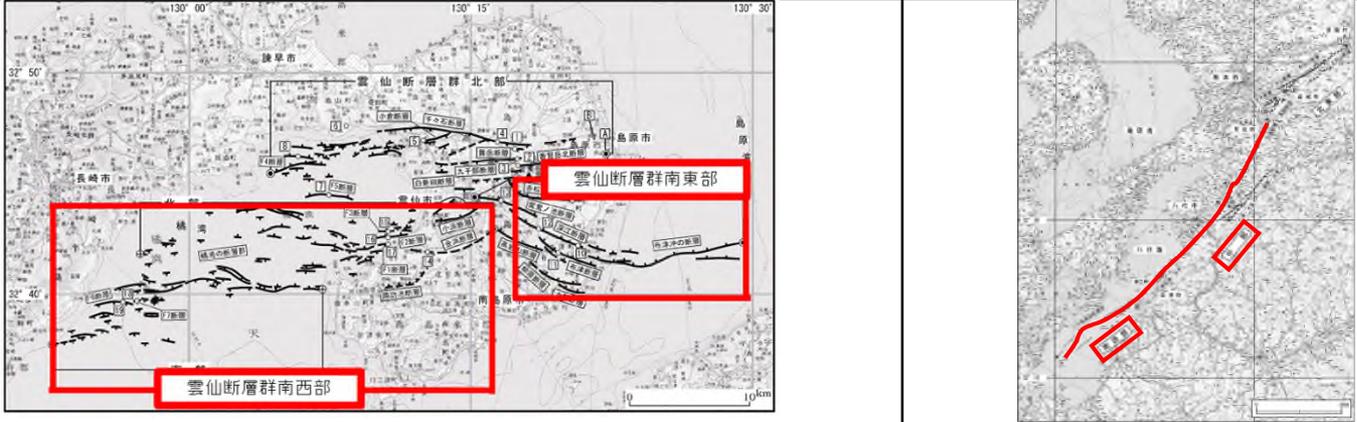
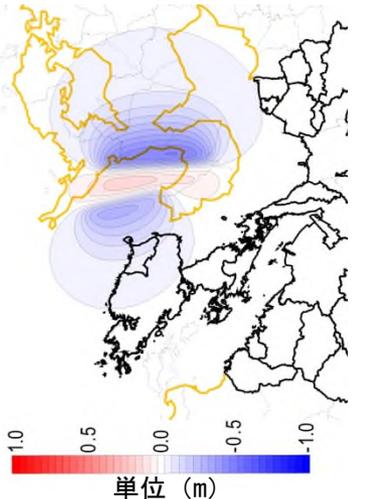
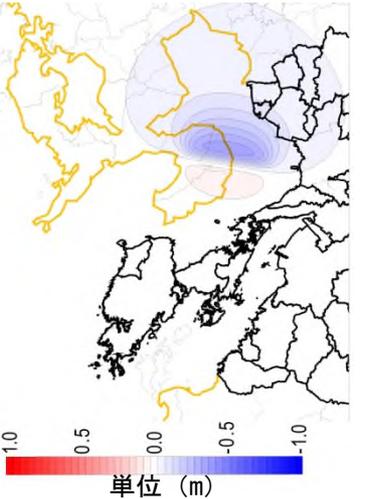
出典：「主な海溝型地震の評価結果」(地震調査研究推進本部)

熊本県の想定津波について

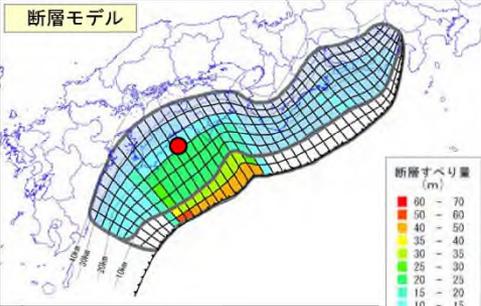
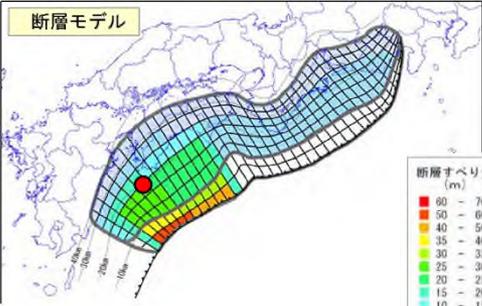
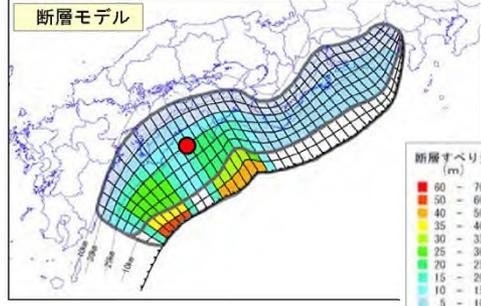
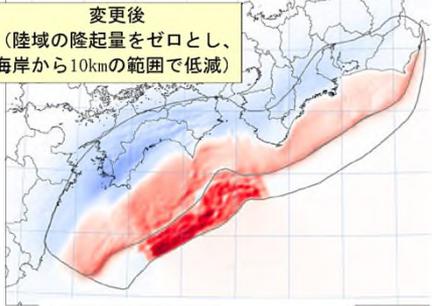
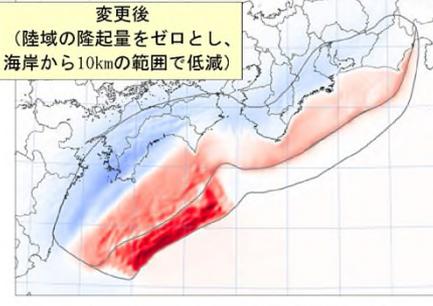
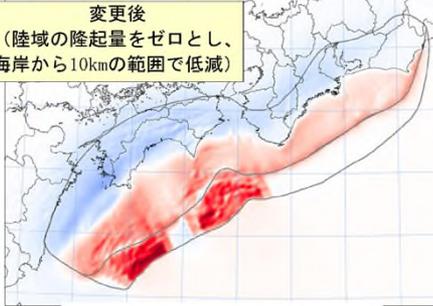
- 調査にあたっては、国の「長期評価」が実施された地震を対象に検討を実施
- また、検討対象地震は、次表のとおり。
- さらに、津波断層モデルの設定は、「地震調査研究推進本部」や「内閣府」が発表しているものを使用

	調査対象断層帯等[想定地震の震源域]	地震規模	断層モデル
①	布田川・日奈久断層帯 中部・南西部	M7. 9	地震調査研究推進本部 モデル
	(中部)単独 (南西部)単独	(M7. 6) (M7. 2)	
②	雲仙断層群 南東部 雲仙断層群 南西部	M7. 1 M7. 5	
③	南海トラフ	M9. 1	内閣府モデル

最大クラスの津波の選定

対象津波	雲仙断層群 南西部	雲仙断層群 南東部	布田川・日奈久断層帯 (中部・南西部)
マグニチュード	M=7.5	M=7.1	M=7.9
使用モデル	地震調査研究推進本部の評価を基に作成		
説明	地震調査研究推進本部で検討された「地震活動の長期評価」のうち 熊本県内の沿岸に影響が大きいと考えられるケースを選定。		
概要	波源域		
	地盤の鉛直方向変動量分布		

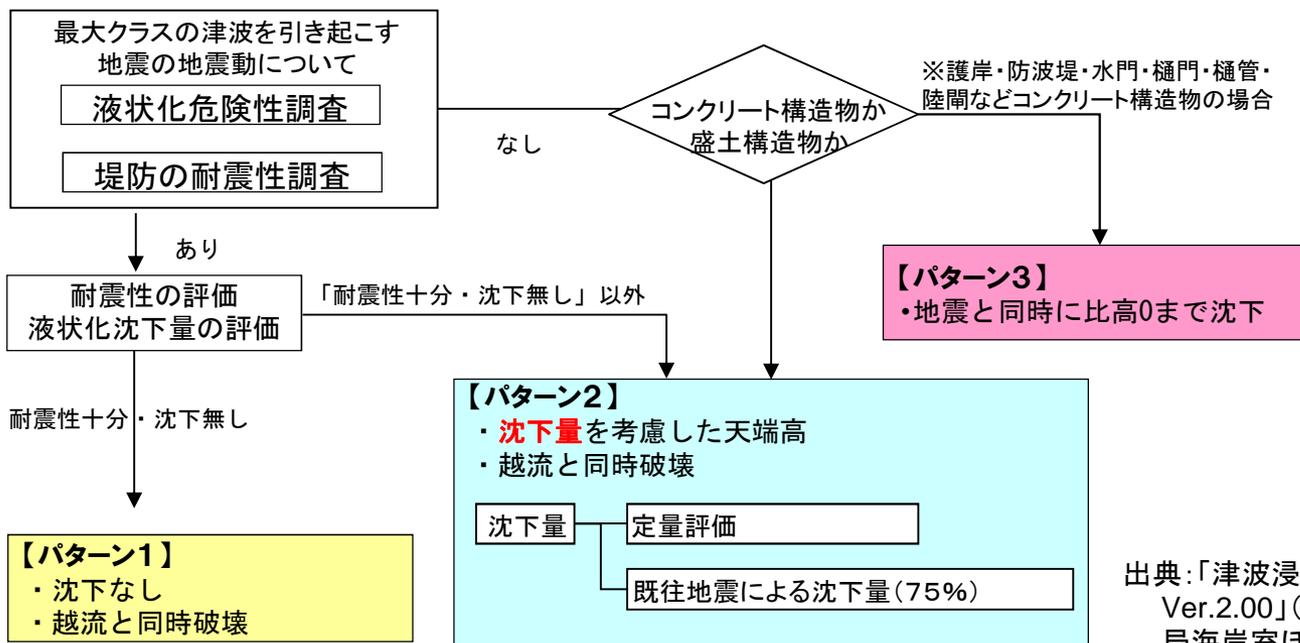
最大クラスの津波の選定

対象津波	南海トラフの巨大地震 (ケース4)	南海トラフの巨大地震 (ケース5)	南海トラフの巨大地震 (ケース11)
マグニチュード	Mw=9.1	Mw=9.1	Mw=9.1
使用モデル	内閣府「南海トラフの巨大地震モデル検討会」(第二次報告)モデル		
説明	内閣府「南海トラフの巨大地震モデル検討会」で検討された南海トラフのうち 熊本県内の沿岸に影響が大きいと考えられるケースを選定。		
波源域	 <p>断層モデル</p> <p>● : 破壊開始点</p> <p>断層すべり量 (m)</p> <ul style="list-style-type: none"> 60 - 70 50 - 60 40 - 50 35 - 40 30 - 35 25 - 30 20 - 25 15 - 20 10 - 15 5 - 10 5 	 <p>断層モデル</p> <p>● : 破壊開始点</p> <p>断層すべり量 (m)</p> <ul style="list-style-type: none"> 60 - 70 50 - 60 40 - 50 35 - 40 30 - 35 25 - 30 20 - 25 15 - 20 10 - 15 5 - 10 5 	 <p>断層モデル</p> <p>● : 破壊開始点</p> <p>断層すべり量 (m)</p> <ul style="list-style-type: none"> 60 - 70 50 - 60 40 - 50 35 - 40 30 - 35 25 - 30 20 - 25 15 - 20 10 - 15 5 - 10 5
概要 地盤の鉛直方向変動量分布	<p>変更後 (陸域の隆起量をゼロとし、 海岸から10kmの範囲で低減)</p>  <p>変動量(m)</p> <p>10.0 5.0 0.0 -5.0 -10.0</p> <p>隆起 ← → 沈降</p>	<p>変更後 (陸域の隆起量をゼロとし、 海岸から10kmの範囲で低減)</p>  <p>変動量(m)</p> <p>10.0 5.0 0.0 -5.0 -10.0</p> <p>隆起 ← → 沈降</p>	<p>変更後 (陸域の隆起量をゼロとし、 海岸から10kmの範囲で低減)</p>  <p>変動量(m)</p> <p>10.0 5.0 0.0 -5.0 -10.0</p> <p>隆起 ← → 沈降</p>

各種計算条件について(概要)

- 1) 潮位については、各沿岸毎に「朔望平均満潮位」を設定
(有明海沿岸 : T.P. +1.9~2.6m、天草西沿岸 : T.P. + 1.6~1.9m、八代海沿岸 : T.P. +1.5~2.1m)
- 2) 地盤の沈下については、断層モデルから沈降量を算定し、その結果を用いて陸域の地形データの高さから差し引く (最大沈下量-1.3m)
- 3) 地震動については、下表及びフローのとおり、各種施設の技術的評価結果に基づき判定
- 4) 津波の越流については、越流と同時に各種施設とも「破壊」(比高ゼロ)

耐震性や液状化に対する技術的評価結果がある場合	<p>【パターン1】「耐震性が十分・沈下無し」との評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種施設の沈下なし <p>【パターン2】「耐震性が十分・沈下無し」以外の評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価結果による沈下量を考慮
耐震性や液状化に対する技術的評価結果がない場合	<p>【パターン2】盛土構造物(海岸堤防、河川堤防等)の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 堤防等の比高を75%沈下(25%の比高が残る) <p>【パターン3】コンクリート構造物(護岸、防波堤等)の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 倒壊(比高ゼロ)



出典:「津波浸水想定の設定の手引き Ver.2.00」(国土交通省水管理・国土保全局海岸室ほか、平成24年10月)

設定した津波浸水想定の項目について

■基本事項

○浸水域

海岸線から陸域に津波が遡上することが想定される区域

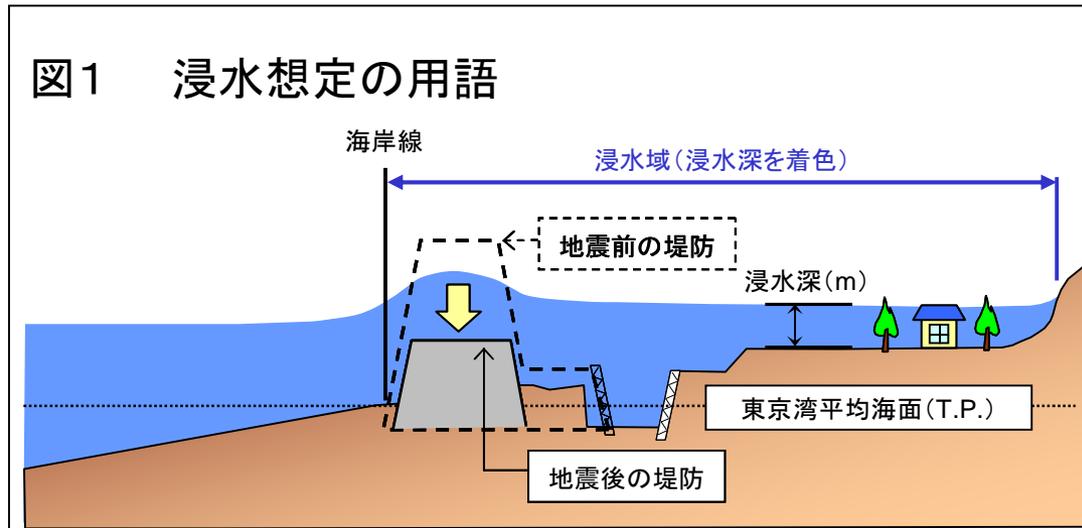
○浸水深

陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ

■参考事項

○津波の水位

海岸線から沖合約30m地点における、最も高い津波の高さを標高で表示



計算結果について

■ 基本事項

○ 浸水域、浸水深：熊本県津波浸水想定図のとおり

■ 参考事項

○ 津波の水位

沿岸	市町名	地域海岸名	津波の水位			
			A+B (T.P.m)	A 津波波高 (m)	B 朔望平均満潮位 (T.P.m)	
有明海	アラオン 荒尾市	地域海岸1	2.9 ~ 3.1	0.3 ~ 0.5	2.6	
	ナガス マチ 長洲町		3.0 ~ 3.4	0.4 ~ 0.8	2.6	
	タマナシ 玉名市		3.0 ~ 3.2	0.5 ~ 0.6	2.4 ~ 2.6	
	クマモトシ 熊本市		2.9 ~ 3.0	0.5 ~ 0.6	2.4	
	ウトシ 宇土市		2.9 ~ 3.0	0.5 ~ 0.6	2.4	
天草西	ウ キ シ 宇城市 (有明海側)	地域海岸2	2.5 ~ 2.6	0.4 ~ 0.5	2.1	
	カミアマクサシ 上天草市 (有明海側)		2.4 ~ 3.1	0.3 ~ 1.0	2.1	
	アマクサシ 天草市 (有明海側)		地域海岸3	2.3 ~ 3.4	0.4 ~ 1.3	1.9 ~ 2.1
	アマクサシ 天草市 (天草西沿岸側)		地域海岸4	2.4 ~ 2.8	0.5 ~ 0.9	1.9
	レイホクマチ 苓北町		地域海岸5	2.8 ~ 3.2	0.9 ~ 1.3	1.9
レイホクマチ 苓北町	2.4 ~ 3.0	0.8 ~ 1.4		1.6		
八代海	アマクサシ 天草市 (天草西沿岸側)	地域海岸6	2.0 ~ 2.8	0.4 ~ 1.2	1.6	
	アマクサシ 天草市 (天草西沿岸側)		2.4 ~ 3.6	0.8 ~ 1.8	1.6 ~ 1.8	
	アマクサシ 天草市 (八代海側)		地域海岸7	2.3 ~ 3.8	0.5 ~ 2.0	1.8
	アマクサシ 天草市 (八代海側)		地域海岸8	2.3 ~ 3.2	0.5 ~ 1.4	1.8
	カミアマクサシ 上天草市 (八代海側)		地域海岸9	2.4 ~ 3.5	0.5 ~ 1.4	1.8 ~ 2.1
津奈木	ウ キ シ 宇城市 (八代海側)	地域海岸10	2.3 ~ 3.3	0.2 ~ 1.2	2.0 ~ 2.1	
	ヒカウ チョウ 氷川町		2.6	0.5	2.1	
	ヤツシロシ 八代市		2.3 ~ 2.7	0.4 ~ 0.9	1.8 ~ 2.1	
	アシキタマチ 芦北町	地域海岸11	2.1 ~ 3.0	0.3 ~ 1.2	1.5 ~ 1.8	
	ツ ナ ギ マチ 津奈木町		2.1 ~ 2.7	0.6 ~ 1.2	1.5	
ミナマタシ 水俣市		2.0 ~ 2.5	0.5 ~ 1.0	1.5		

※ この津波浸水想定は、現在の知見を基に津波の浸水予測を行ったものであり、想定より大きな津波が襲来し、津波の水位が大きくなる可能性があります。

※ 「津波の水位」は、海岸線から沖合約30m地点における「津波の水位」を標高で表示しています。

※ 気象庁が発表する「津波の高さ」は、平常潮位(津波が無かった場合の同じ時間の潮位)からの高さですので、津波の水位とは異なります。

※ 標高は東京湾平均海面からの高さ(単位:T.P.+m)として表示しています。

設定した津波浸水想定の利用について

■津波防災地域づくりの推進

○津波避難意識の向上

- ・最大クラスの津波リスクの正しい認識に活用
- ・防災関係機関や地元区長等をメンバーとする沿岸市町の防災会議では、津波浸水想定の設定内容等について説明を実施。
- ・避難訓練の実施
(熊本市、八代市、荒尾市、水俣市、玉名市、上天草市、宇城市、長洲町、苓北町)
- ・沿岸市町において津波ハザードマップの作成
(熊本市、天草市、芦北町)
- ・標高マップの作成(上天草市、長洲町)
- ・マイハザードマップの作成(天草市高浜地区)
- ・熊本県津波防災担当者会議の開催(H26.4)

【津波ハザードマップの公表】
(熊本県熊本市)(H26.2)



【避難訓練】(熊本県水俣市)
※津波災害に対する防災避難訓練を実施



【マイハザードマップの作成】
(熊本県天草市)
※ワークショップや街歩きを行い、危険箇所や避難路を確認

○津波避難体制の構築

- ・最大クラスの津波から避難するための避難計画の策定や、避難施設の設置、ソフト対策等に活用
- ・【熊本県津波避難計画策定指針】の改訂(H26.5策定予定)市町村が避難計画を策定するための指針の策定
- ・津波避難施設の設置
苓北町で3箇所建設(H26.3時点)
- ・海岸開口部の防災機能強化(ソフト対策)
陸こうの閉塞、監視カメラ設置(H26.3時点)



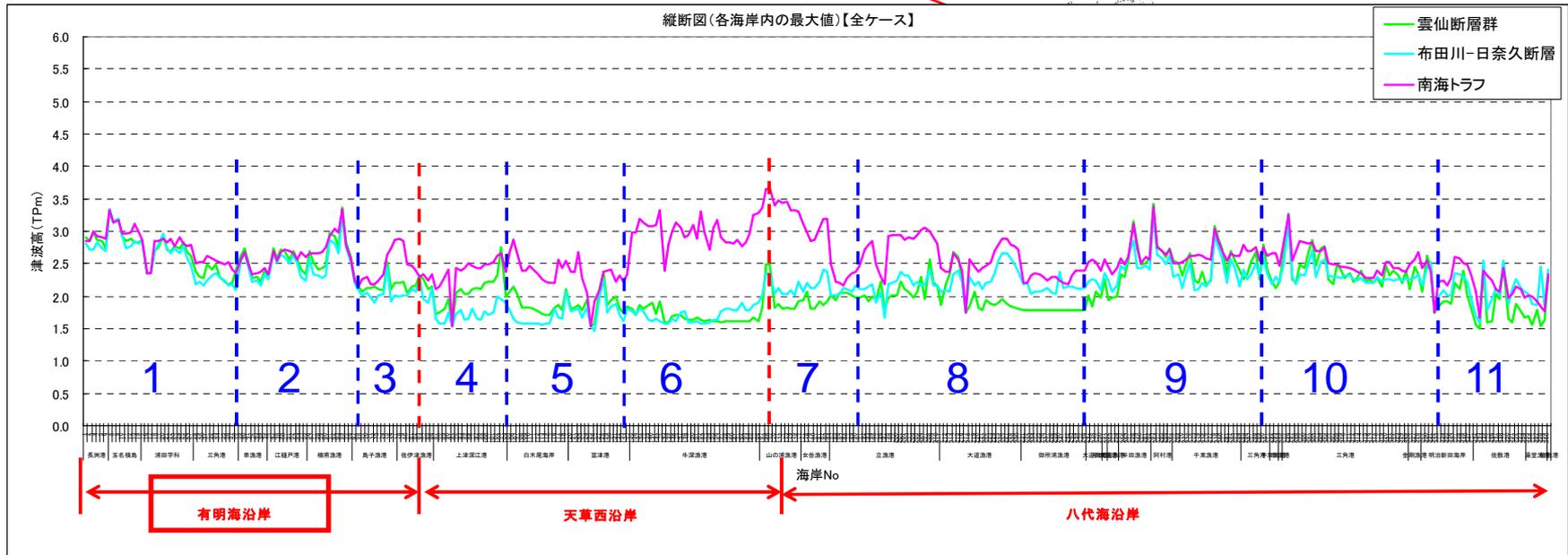
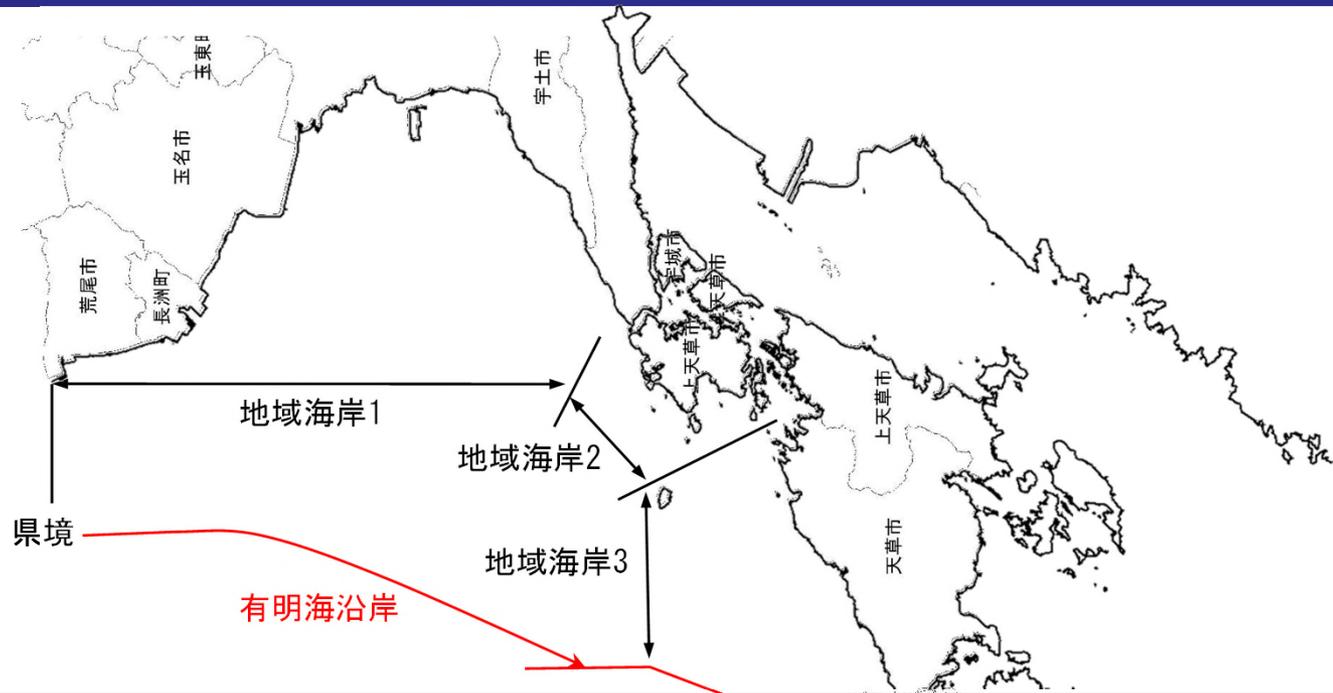
【津波避難施設】(熊本県苓北町)
※苓北町で津波避難施設を建設

参 考 資 料

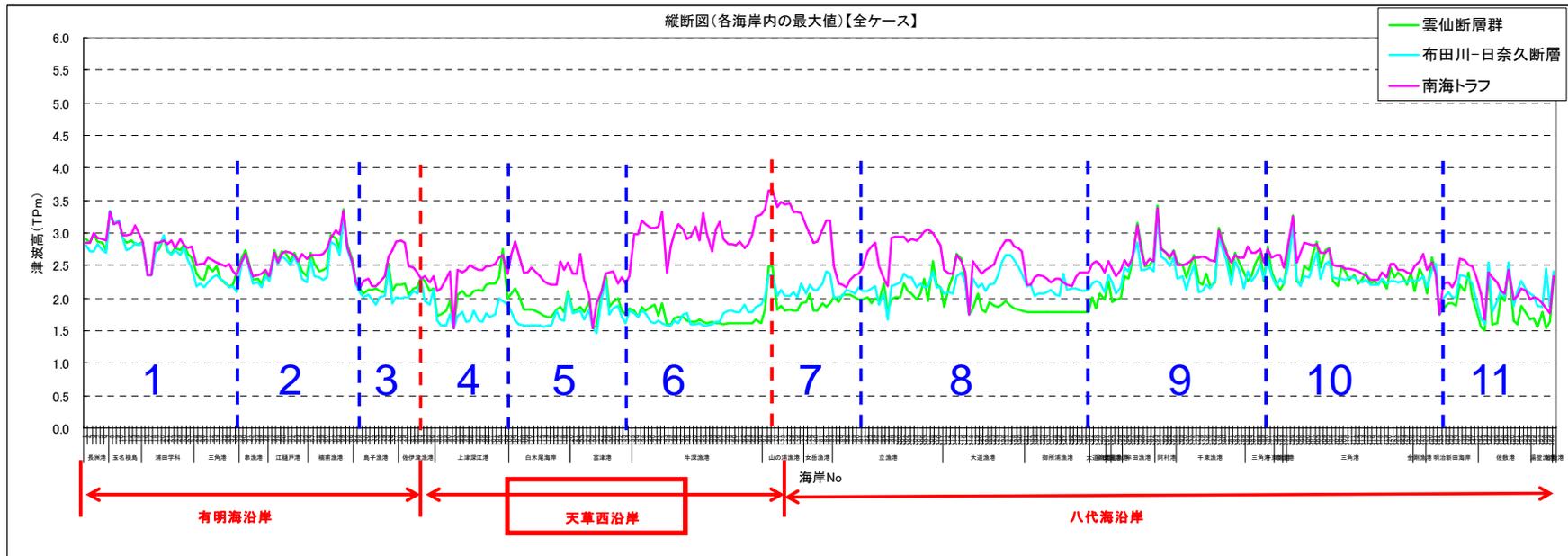
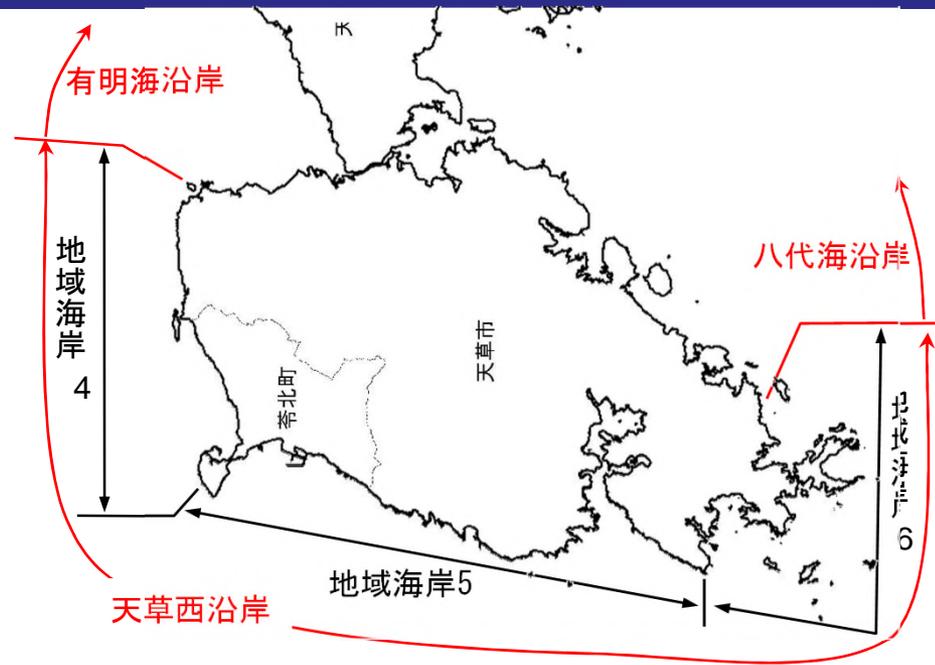
地域海岸の区分



地域海岸の区分(補足)



地域海岸の区分(補足)

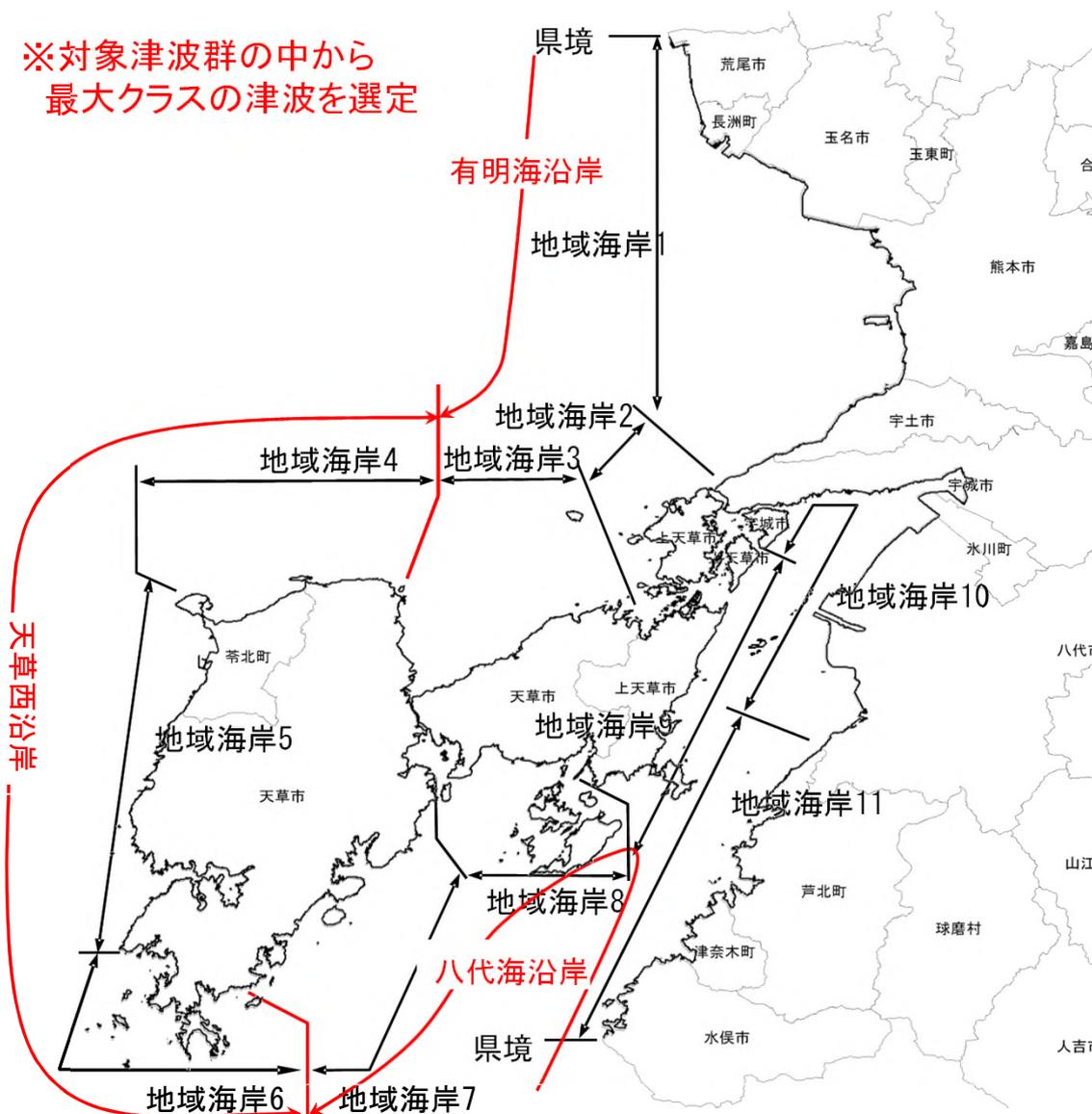


最大クラスの津波の対象津波群

沿岸名	地域海岸	海岸名		最大クラスの津波の津波群 (津波高 TPm)		
				雲仙断層群	布田川日奈久断層帯	南海トラフ
有明海沿岸	地域海岸1	荒尾港海岸	～ 太田尾海岸	3.4	3.4	3.4
	地域海岸2	白濁漁港海岸	～ 知十港海岸	3.0	2.9	3.1
	地域海岸3	小仏海岸	～ 長崎海岸	3.4	3.3	3.4
天草西沿岸	地域海岸4	向海岸	～ 富岡北漁港海岸	3.2	2.4	3.1
	地域海岸5	富岡漁港海岸	～ 亀浦港海岸	2.5	2.4	3.0
	地域海岸6	魚貴崎漁港海岸	～ 大ノ浦海岸	2.2	2.2	3.6
八代海沿岸	地域海岸7	山の浦漁港海岸	～ 天附港海岸	2.6	2.5	3.8
	地域海岸8	浦ノ迫海岸	～ 鳴川海岸	2.8	2.8	3.2
	地域海岸9	大道漁港海岸	～ 三角港海岸(岩谷地区)	3.5	3.3	3.5
	地域海岸10	三角港海岸(戸馳地区)	～ 二見漁港海岸	3.3	3.2	3.3
	地域海岸11	井牟田漁港海岸	～ 茂道漁港海岸	2.9	3.0	2.8

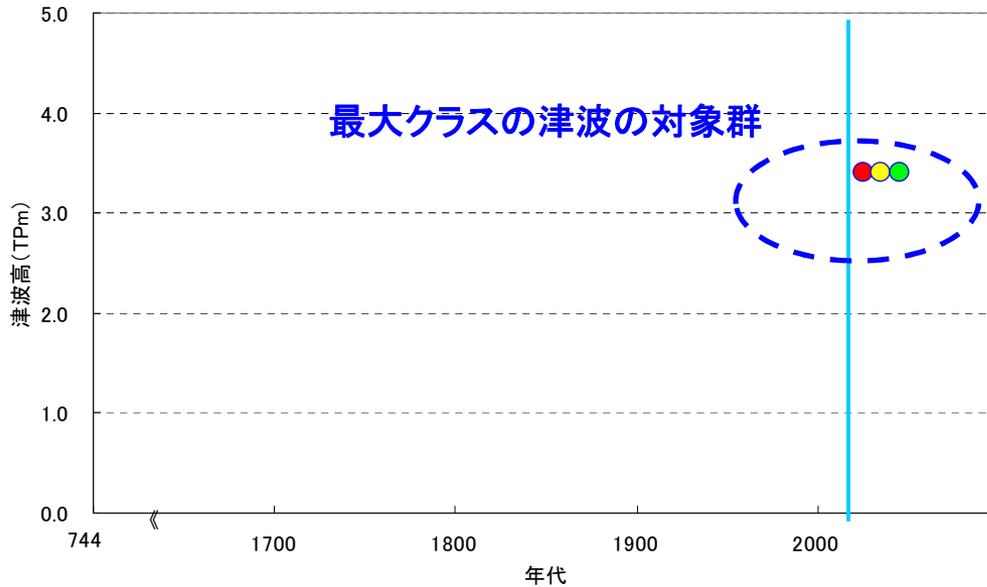
※上表の津波波高は、潮位条件を朔望平均満潮位に合わせた場合のシミュレーション値であり、各地域海岸における最大の値。値は0.1m切り上げ。

※対象津波群の中から最大クラスの津波を選定



最大クラスの津波の対象津波群の選定(地域海岸1)

地域海岸1 (荒尾市大島～宇城市三角町三角浦)

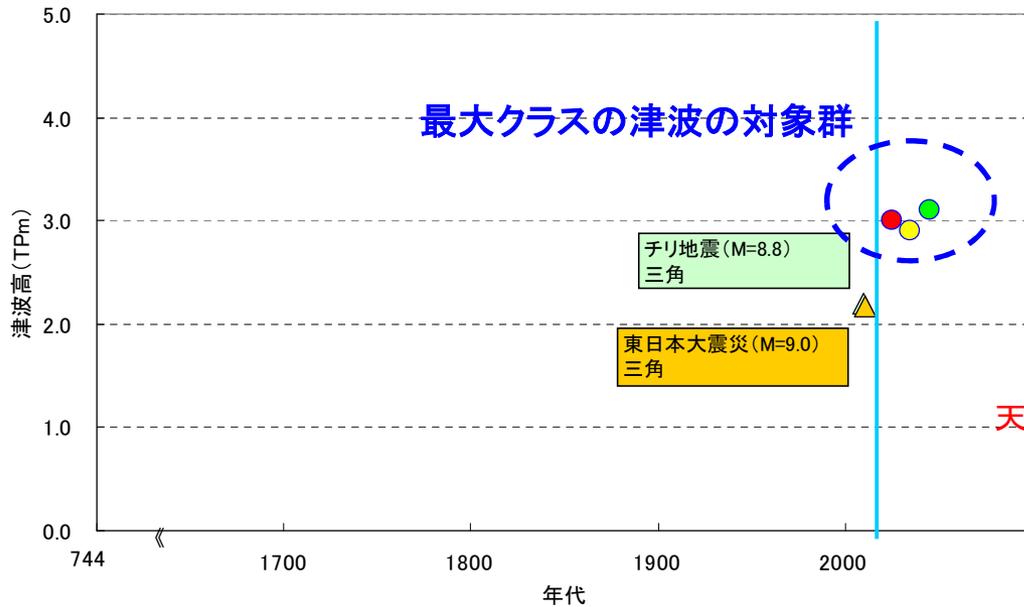


- 想定津波【雲仙断層群】の最高水位(シミュレーション)
- 想定津波【布田川日奈久断層帯】の最高水位(シミュレーション)
- 想定津波【南海トラフ】の最高水位(シミュレーション)



最大クラスの津波の対象津波群の選定(地域海岸2)

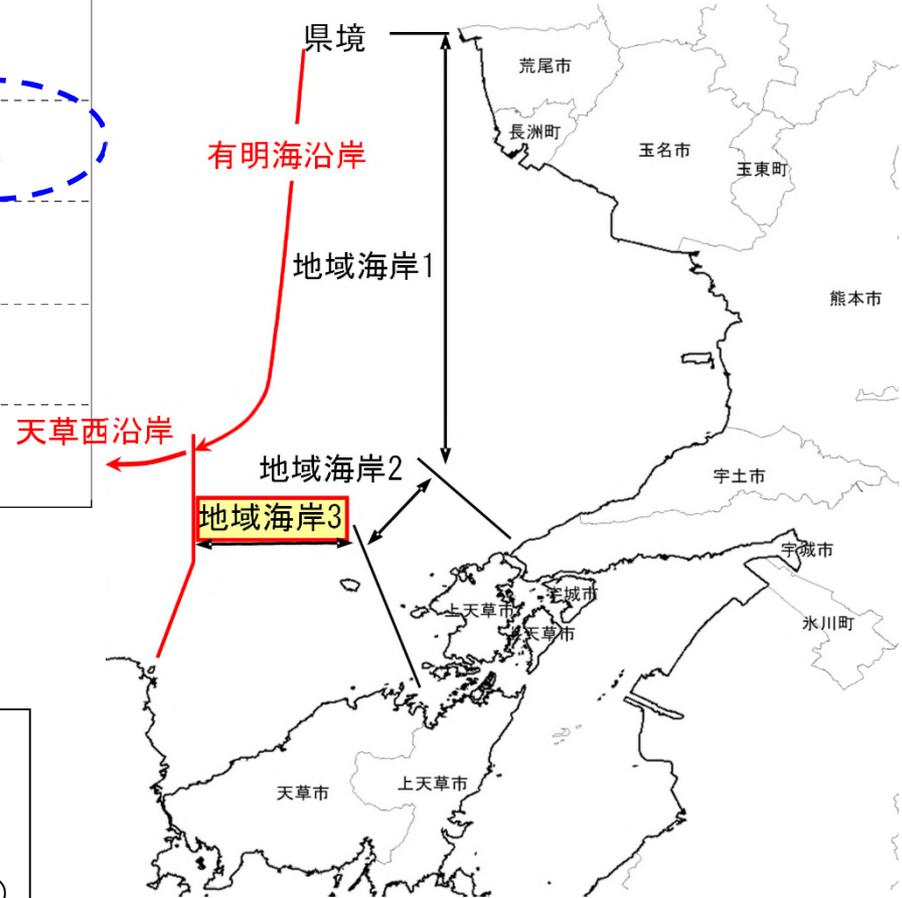
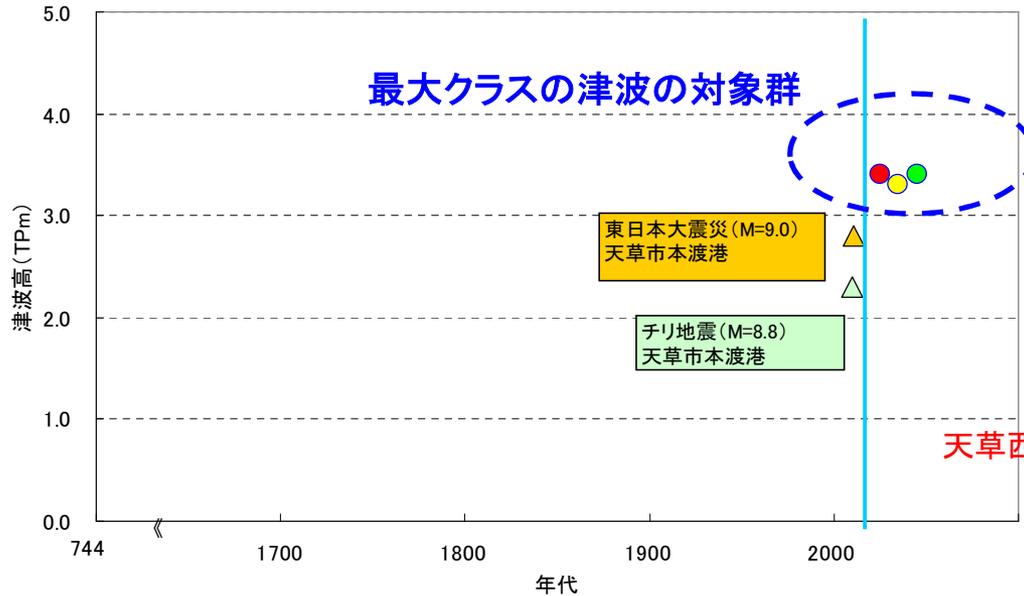
地域海岸2 (上天草市大矢野町 登立~上天草市松原町今泉)



- ▲ 実績津波痕跡値 (2010チリ地震)
- ▲ 実績津波痕跡値 (2011東日本大震災)
- 想定津波【雲仙断層群】の最高水位 (シミュレーション)
- 想定津波【布田川日奈久断層帯】の最高水位 (シミュレーション)
- 想定津波【南海トラフ】の最高水位 (シミュレーション)

最大クラスの津波の対象津波群の選定(地域海岸3)

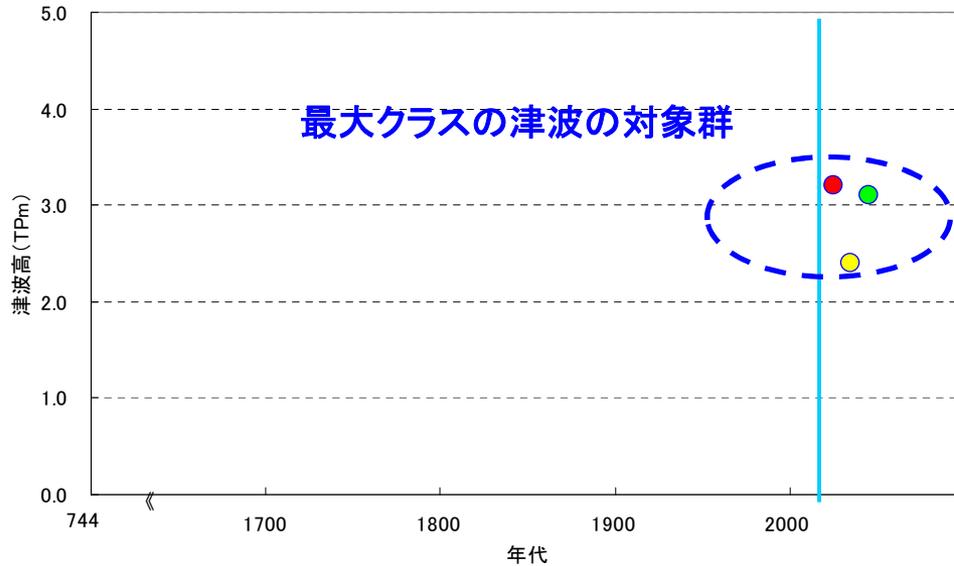
地域海岸3 (天草市有明町楠甫～天草市五和町御領)



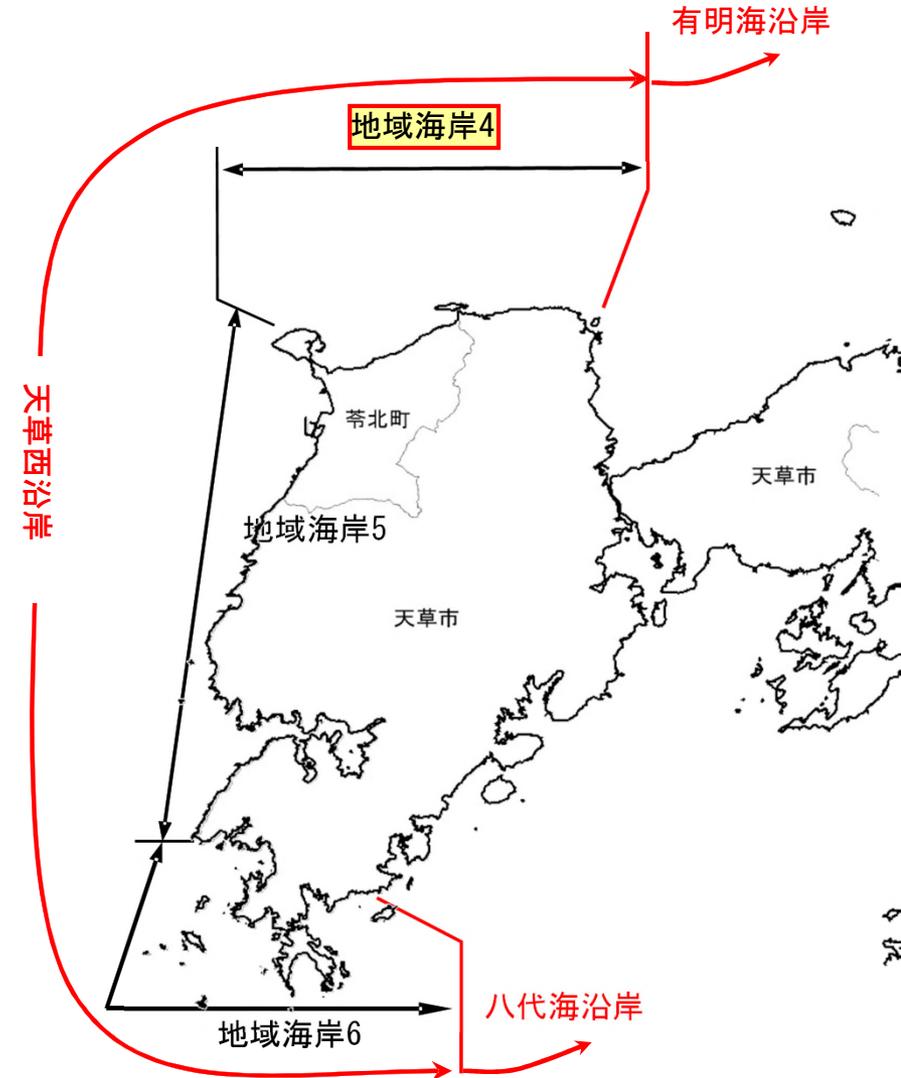
- △ 実績津波痕跡値 (2010チリ地震)
- △ 実績津波痕跡値 (2011東日本大震災)
- 想定津波【雲仙断層群】の最高水位 (シミュレーション)
- 想定津波【布田川日奈久断層帯】の最高水位 (シミュレーション)
- 想定津波【南海トラフ】の最高水位 (シミュレーション)

最大クラスの津波の対象津波群の選定(地域海岸4)

地域海岸4 (天草市五和町御領～苓北町富岡)

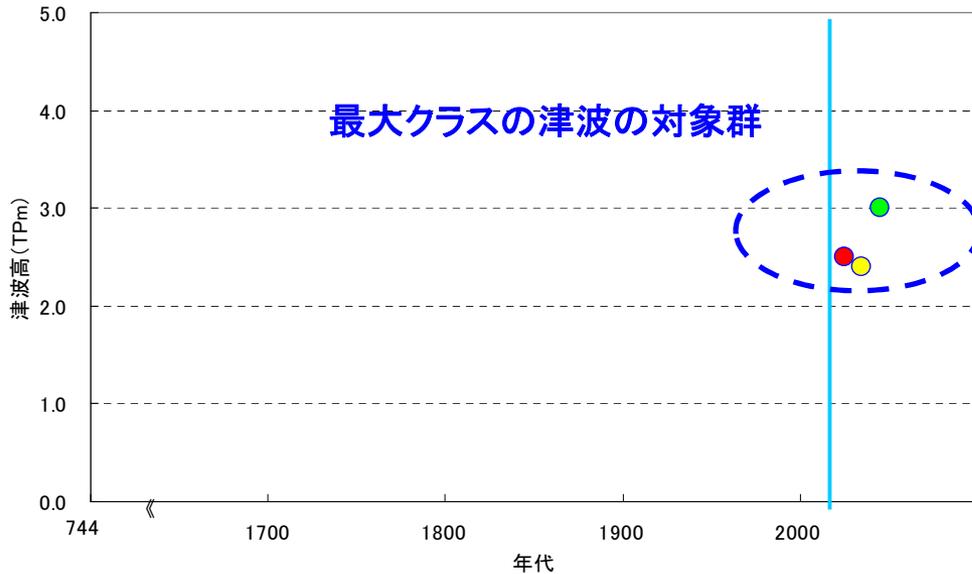


- 想定津波【雲仙断層群】の最高水位(シミュレーション)
- 想定津波【布田川日奈久断層帯】の最高水位(シミュレーション)
- 想定津波【南海トラフ】の最高水位(シミュレーション)

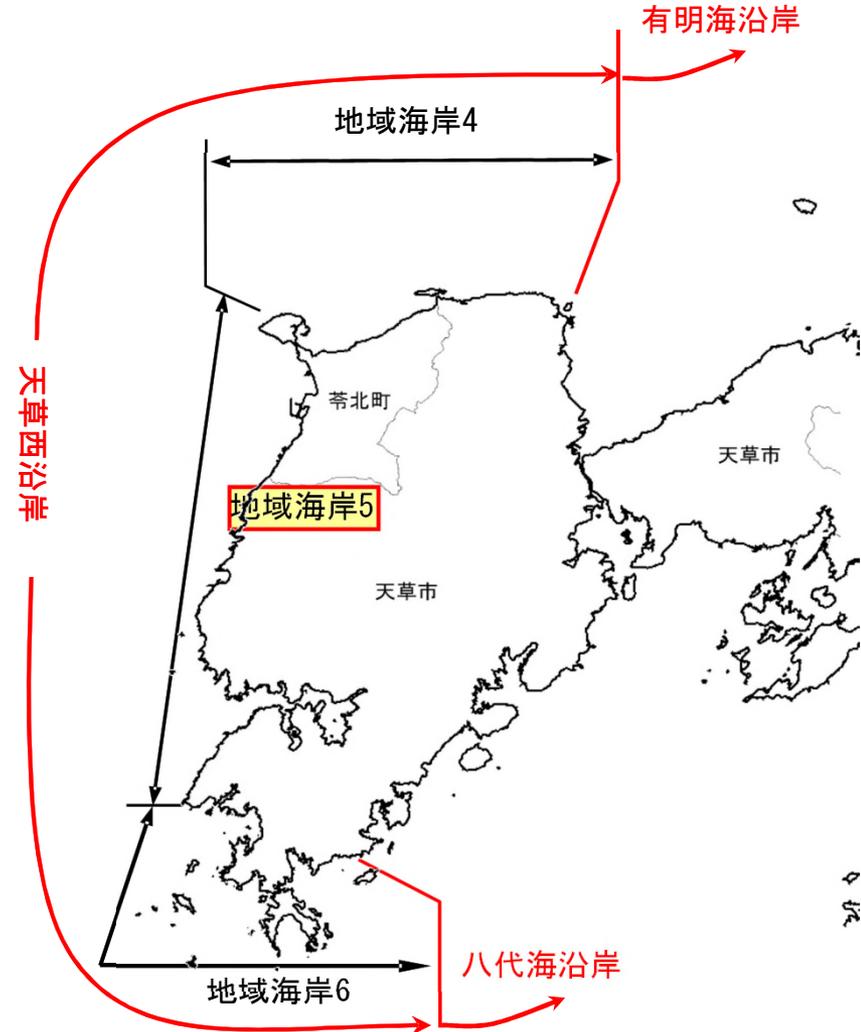


最大クラスの津波の対象津波群の選定(地域海岸5)

地域海岸5 (苓北町富岡～天草市魚貫町)

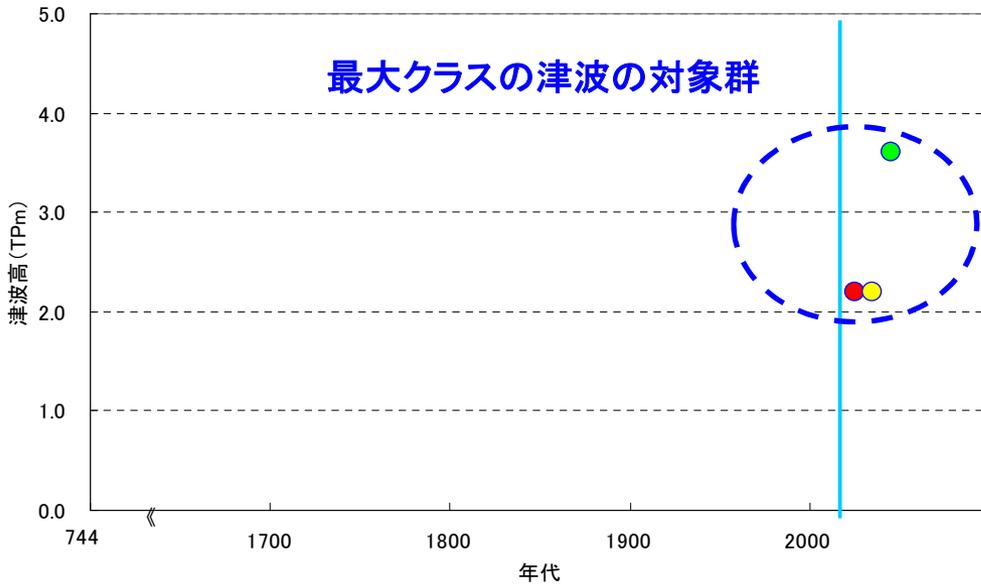


- 想定津波【雲仙断層群】の最高水位 (シミュレーション)
- 想定津波【布田川日奈久断層帯】の最高水位 (シミュレーション)
- 想定津波【南海トラフ】の最高水位 (シミュレーション)



最大クラスの津波の対象津波群の選定(地域海岸6)

地域海岸6 (天草市魚貴町～天草市久玉町)



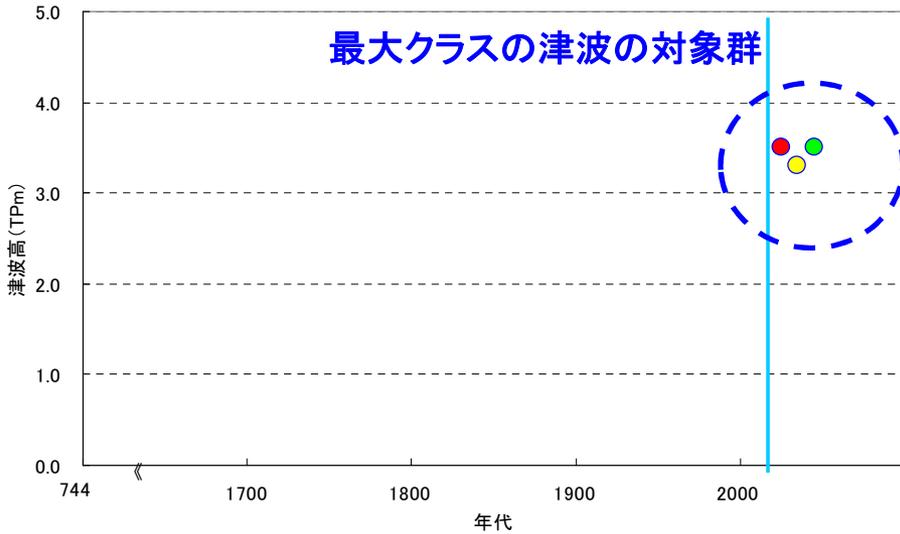
- 想定津波【雲仙断層群】の最高水位(シミュレーション)
- 想定津波【布田川日奈久断層帯】の最高水位(シミュレーション)
- 想定津波【南海トラフ】の最高水位(シミュレーション)



最大クラスの津波の対象津波群の選定(地域海岸9)

地域海岸9 (上天草市龍ヶ岳町大道～上天草市 大矢野町登立)

最大クラスの津波の対象群

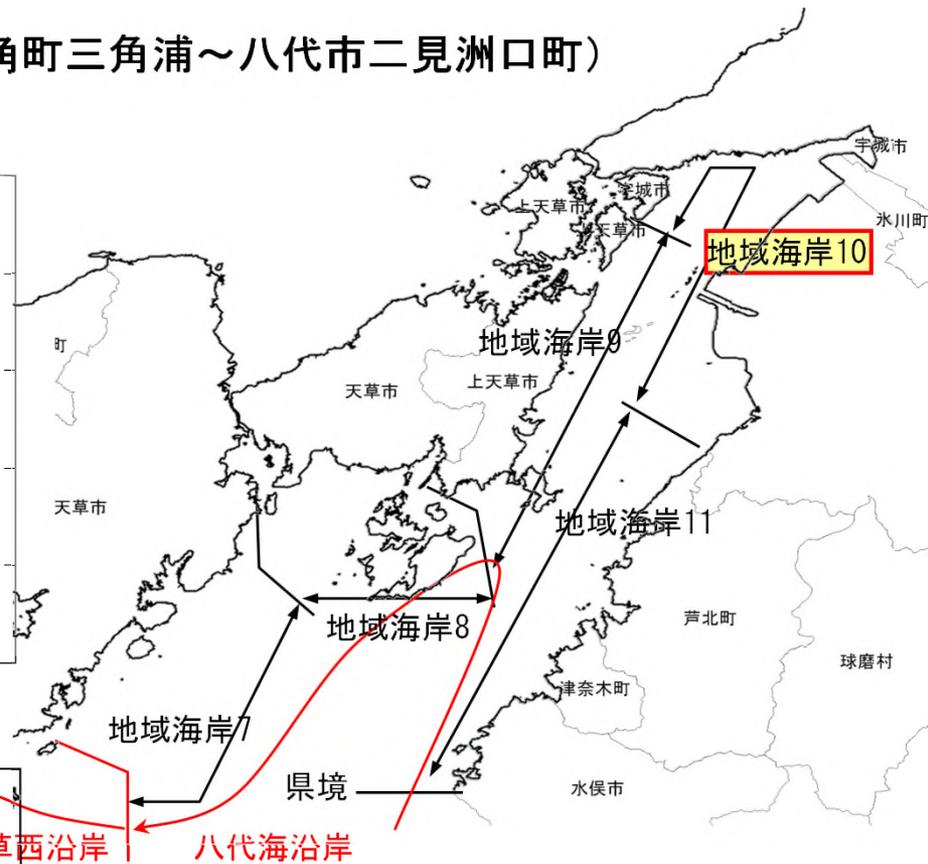
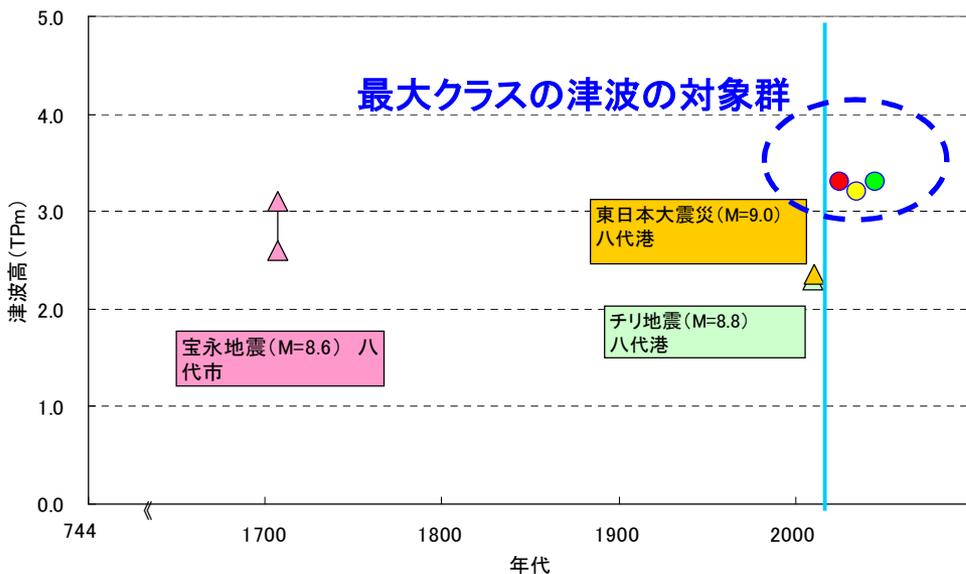


- 想定津波【雲仙断層群】の最高水位(シミュレーション)
- 想定津波【布田川日奈久断層帯】の最高水位(シミュレーション)
- 想定津波【南海トラフ】の最高水位(シミュレーション)



最大クラスの津波の対象津波群の選定(地域海岸10)

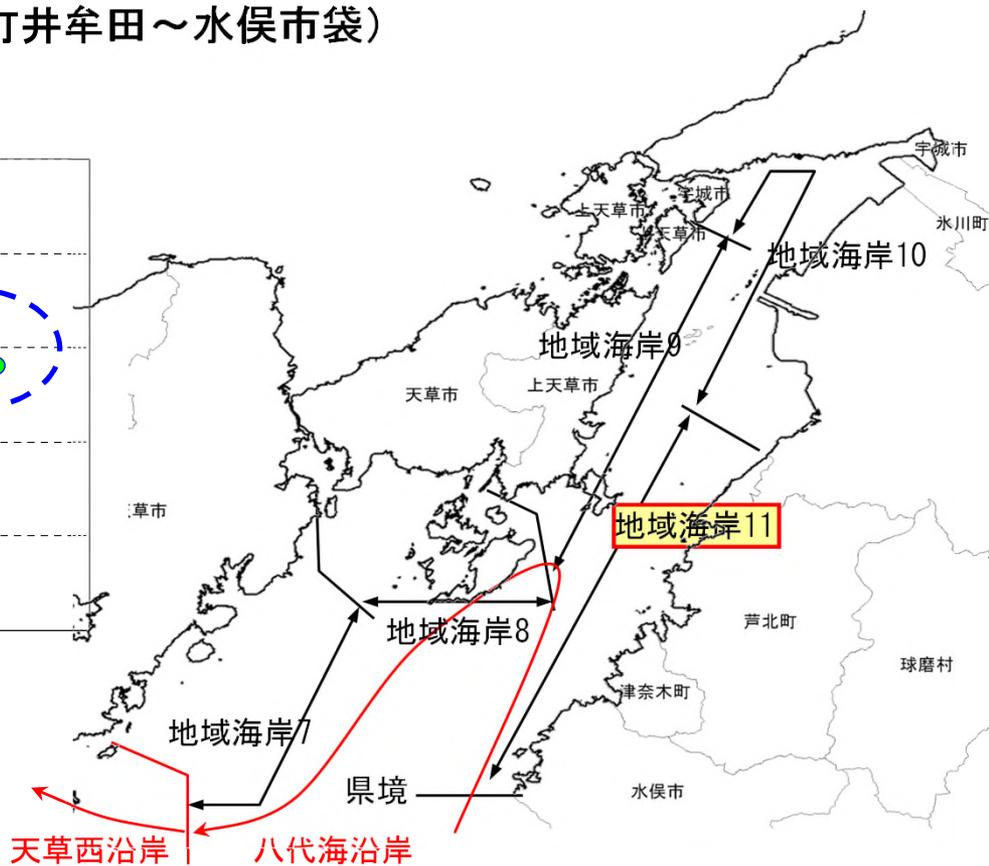
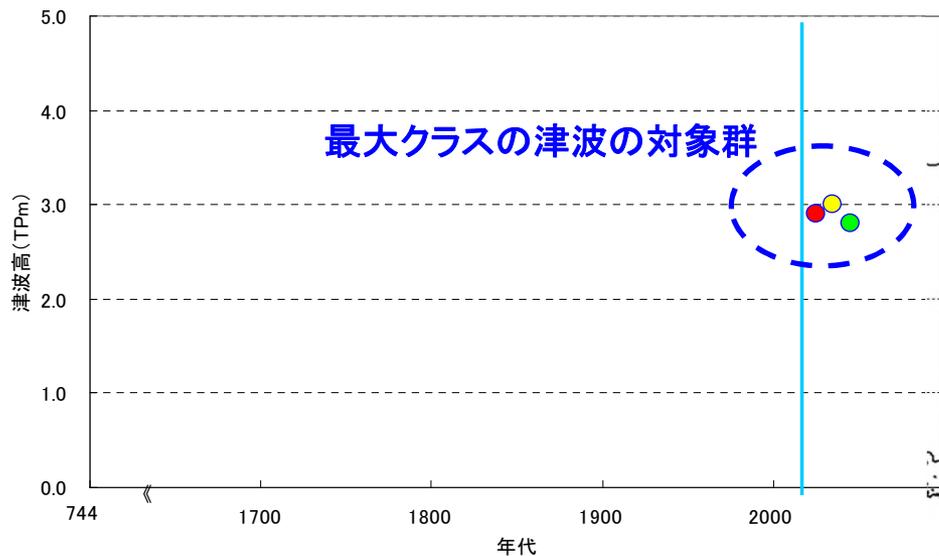
地域海岸10 (宇城市三角町三角浦～八代市二見洲口町)



- ▲ 実績津波痕跡値(1707宝永地震)
- ▲ 実績津波痕跡値(2010チリ地震)
- ▲ 実績津波痕跡値(2011東日本大震災)
- 想定津波【雲仙断層群】の最高水位(シミュレーション)
- 想定津波【布田川日奈久断層帯】の最高水位(シミュレーション)
- 想定津波【南海トラフ】の最高水位(シミュレーション)

最大クラスの津波の対象津波群の選定(地域海岸11)

地域海岸11 (芦北町井牟田～水俣市袋)

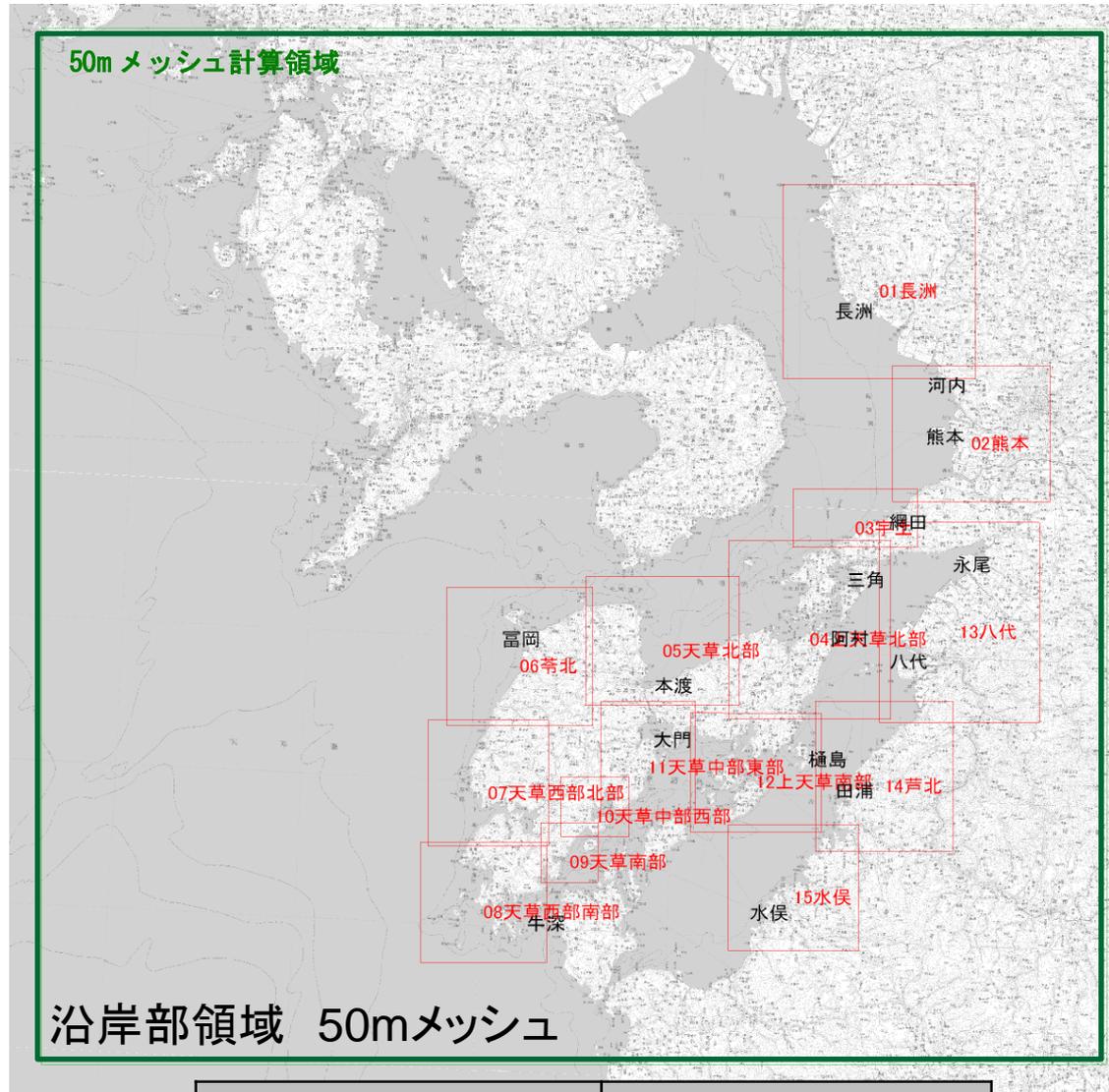


- 想定津波【雲仙断層群】の最高水位 (シミュレーション)
- 想定津波【布田川日奈久断層帯】の最高水位 (シミュレーション)
- 想定津波【南海トラフ】の最高水位 (シミュレーション)

各種計算条件について(詳細)

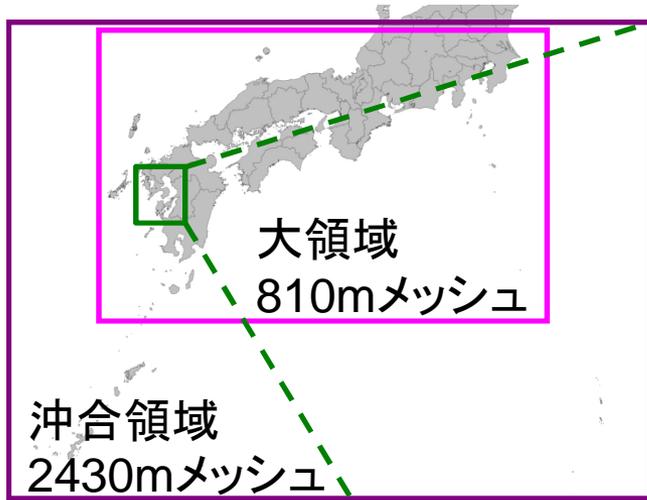
項目	内容
基礎方程式と数値計算法	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 非線形長波方程式をLeap-Frog差分法を用いて近似（波源域から沿岸までの伝播や陸域への浸水）
計算範囲と計算格子間隔	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 計算範囲：次頁のとおり ◆ 格子間隔：以下の計算格子を接続 直下型；雲仙断層群、布田川日奈久断層帯 （波源域から沿岸まで） 50m （陸域） 10m 海溝型；南海トラフ （波源域から沿岸まで） 2430m、810m、50m （陸域） 10m
計算時間と計算時間間隔	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 計算時間：12時間 ◆ 時間間隔：0.1～0.3秒（全ての計算領域で一定）
対象地形	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 被災後地形（地震による地盤沈下を反映したもの） （陸域）航空測量LPデータに沈降を考慮 （海域）深浅測量データに隆起・沈降を考慮 （県管理河川）周辺の地盤高から一律3mを差し引き作成 （国管理河川）最新の測量結果を基に地形データを作成
粗度	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 平成18年国土数値情報を用いて、土地利用状況に応じた係数を設定
先端条件 (陸域への浸水計算)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 水深10^{-2}m

計算範囲・計算格子間隔について(雲仙・布田川)

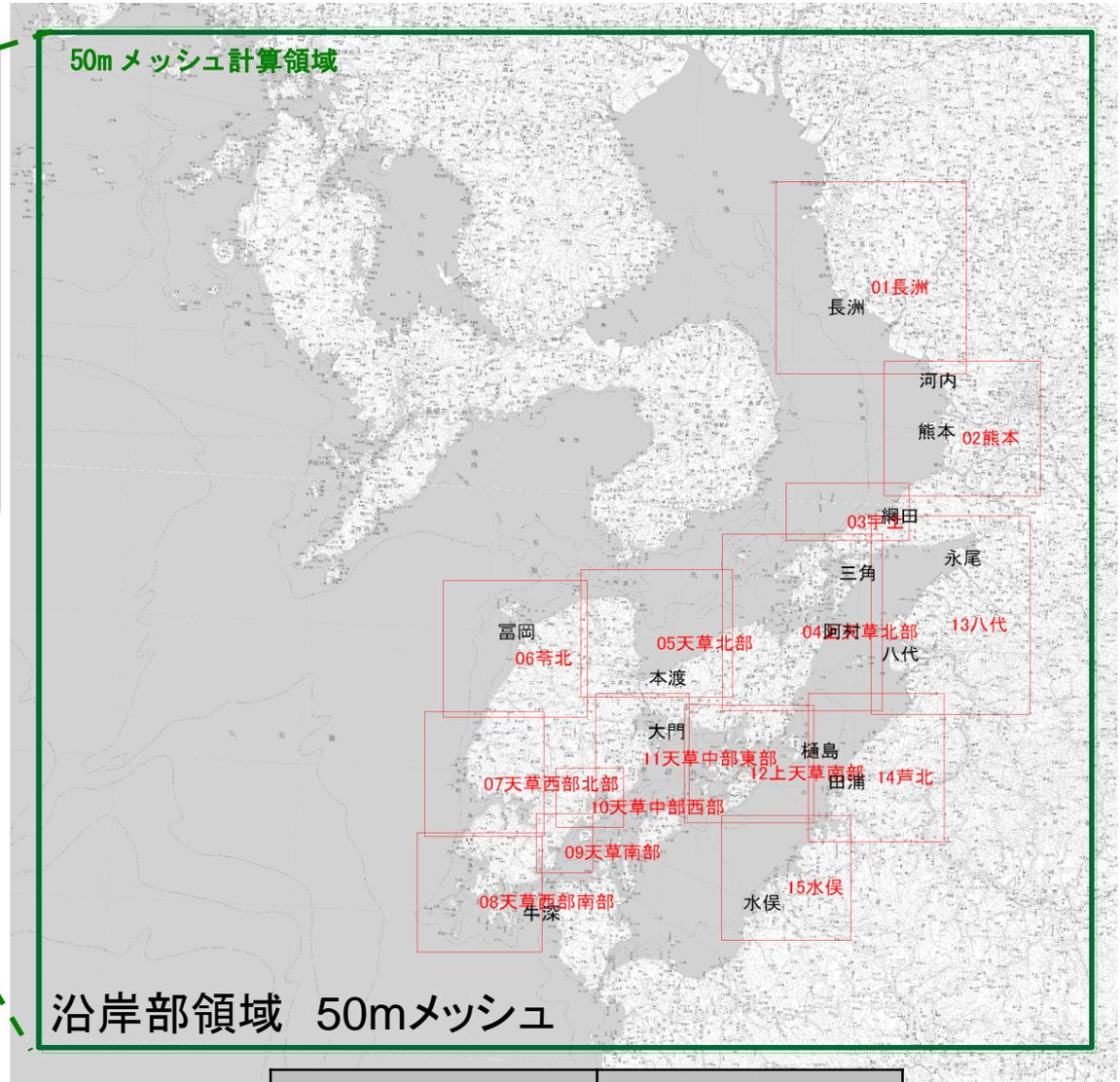


領域名	メッシュサイズ
沿岸部領域	50m
詳細領域	10m

計算範囲・計算格子間隔について(南海トラフ)



領域名	メッシュサイズ
沖合領域	2430m
大領域	810m



領域名	メッシュサイズ
沿岸部領域	50m
詳細領域	10m

検討体制について

津波浸水想定については、「熊本県地域防災計画検討委員会」に設けられた「地震・津波被害想定検討部会」において、平成23,24年度の2カ年で検討した。

検討体制(左:平成23年度、右:平成24年度)

(学識経験者:50音順、防災関係機関委員:熊本県防災会議委員名簿区分順)

	所属	氏名
学識 経験者 委員	熊本大学	北園 芳人
	熊本県立大学	北原 昭男
	熊本大学	松田 泰治
	熊本大学	山田 文彦 (部会長)
防災 関係機 関委員	熊本地方気象台	池田 佳男
	熊本海上保安部	坂上 卓
	熊本市消防局	橋本 孝
	熊本市	吉村 勝幸
	熊本県	牧野 俊彦

	所属	氏名
学識 経験者 委員	熊本大学	北園 芳人
	熊本県立大学	北原 昭男
	熊本大学	松田 泰治
	熊本大学	山田 文彦 (部会長)
防災 関係機 関委員	熊本地方気象台	竹元 幸敏
	熊本海上保安部	鹿山 喜一郎
	熊本市消防局	大塚 和規
	熊本市	佐嘉田 進
	熊本県	佐藤 祐治